

第 12 期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第 12 期宇治市生涯学習審議会 第 1 回審議会							
日 時	令和 7 年 7 月 15 日（火）午前 10 時 00 分～12 時 00 分							
場 所	宇治市生涯学習センター2 階 一般研修室（一部オンラインによる開催）							
出席者	委 員	○	芦田 吉生	○	佐藤 翔	○	林 みその	
		○	押切 真紀	○	嵐 繁行	○	速見 信行	
		○	切明 友子	×	杉岡 秀紀	○	向山 ひろ子	
		○	桑原 千幸	○	長積 仁	○	森川 知史	
		○	小宮山 恭子	○	中本 裕也			
	事務局・市教委職員	○	木上 晴之（教育長）					
		×	福井 康晴（教育部長）					
		○	川崎 吉隆（教育部副部長）					
		○	武田 義博（教育総合推進センター長）					
		○	井上 宜久（教育支援課長）					
		○	福山 誠一（生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長）					
		○	石田 忠義（生涯学習課副課長(兼)生涯学習センター主幹(兼)生涯学習係長）					
		○	竹谷 美紀（生涯学習課生涯学習係主任）					
	○	八木 美穂（生涯学習課生涯学習係主任）						
傍聴者	0 名							

会議要旨は、下記のとおりである。

1. 委嘱状交付式

➤ 委嘱状交付

木上教育長より、委員に委嘱状が交付された。

➤ 宇治市教育委員会教育長挨拶

➤ 委員、事務局職員紹介

2. 審議会の開催

➤ 委員長選出、委員長職務代理指名及びその他の委員への就任について

宇治市生涯学習審議会条例第 5 条の 2 の規定により、委員の互選で長積委員が委員長に選出された。また、宇治市生涯学習審議会条例第 5 条の 4 の規定により、長積委員長が、小宮山委員を委員長職務代理に指名した。

市の各種審議会等の委員の就任について、以下の通り確認を得た。

- ・ 宇治市ジュニア文化賞等選考委員会委員：長積委員長、林委員
- ・ 宇治市文化芸術推進委員会委員：小宮山委員

- ・ 宇治市明るい選挙推進協議会委員：中本委員、切明委員
- ・ 山城地方社会教育委員等連絡協議会理事：鳶委員

➤ 審議会の会議の公開について

事務局から、審議会等の会議の公開について説明し、第 1 回審議会から公開することが決定した。会議録は行政資料コーナー及び市ホームページで公開される。また、毎回審議会の開催については 5 名まで傍聴を受け付け、傍聴については、事前に市政だより、市ホームページで告知される。

3. 報告事項

➤ 令和 7 年度山城地方社会教育委員連絡協議会総会について

(事務局)

6 月 6 日（金）10 時～12 時半、南山城文化会館（やまなみホール）にて令和 7 年度山城地方社会教育委員連絡協議会総会が開催された。令和 6 年度の事業報告・決算報告・監査報告、令和 7・8 年度の役員体制、令和 7 年度の事業計画・収支予算などの議事のあと、「人と人がつながる地域づくり」と題して、本市審議会委員の福知山公立大学 杉岡 秀紀准教授による講演があった。当審議会から、小宮山委員、鳶委員、向山委員の 3 名にご参加いただいた。

(委員長)

当日ご参加いただいた小宮山委員、鳶委員、向山委員より、感想をお聞かせいただきたい。

(委員)

杉岡委員の講演は、普段コミュニティのつながりで悩んでいるのが些細に感じられるような明るく楽しい内容であった。

地域づくりは、価値観がほぼ固まった大学生よりも、高校生から地域に関わり、自分達で考えてもらうことが重要との事だった。このような取組を通じ、高校生が地元へ愛着を持つことで、たとえ大学進学や就職で他府県に出たとしても、将来的に地元に戻ってくる可能性が高まるとのことであった。

(委員長)

講演資料の中で、京丹後市のまちづくり総合計画の新審議会会長に、高校生が就任と紹介されていた。講演を拝聴したかった。

(委員)

かつての地域社会では、地域組織・活動・個人がつながっていたが、現在は地域活動が抜け、個人と組織の関係も希薄になっている現状がある。

第12期宇治市生涯学習審議会 会議録

兵庫県のアンケート調査では、シニアは使命感や義務感から活動に参加する一方、若者は面白そうなどの動機で参加している。若者を地域に巻き込むには、いかに楽しいことを一緒に楽しんで進めるかということが重要との事であった。

(委員)

杉岡委員が審議会で紹介された地域の実践例がとても新しく、目から鱗のような話がたくさんあった。是非これは山城地方の皆様にも聞いてもらいたいと思い講師に推薦した。うきうきわくわくしてくるような楽しい講演だった。

講演の中の「今は少子化で人口は減少するが、人材は増やし続けられる。」この言葉がとても力になっている。若い方の新しい活動を、今後仲間との実践に活かしていきたい。

➤ 令和7年度京都府社会教育委員連絡協議会総会について

(事務局)

6月27日(金)13時半～16時半、長岡京市立中央公民館にて令和7年度京都府社会教育委員連絡協議会総会が開催された。山城地方の総会同様に令和6年度の事業・決算報告、令和7年度の役員・事業計画・収支予算などの議事があったあと、「これからの地域・社会で目指す学び・活動のかたちとは」と題して、一般財団法人 明石コミュニティ創造協会事務局長の木上 裕貴氏による講演があった。

当審議会から、小宮山委員、鳶委員、向山委員、森川委員の4名にご参加いただいた。

(委員長)

当日ご参加いただいた小宮山委員、鳶委員、向山委員、森川委員より感想をお聞かせいただきたい。

(委員)

まちづくりや少子化へ取り組みの中で、皆を巻き込むシステムを上手く取り入れていると思った。講師は南丹市出身の方との事で、京都に帰って来られたら、明石の成功事例を京都にも取り入れてもらいたい。このような若い方に地域の活性化を進めていただきたい。

(委員)

学び・活動など色々な所で人と人が繋がるためには、コーディネーターの力が重要とのことであった。また、明石市では、町家を利用した取り組みにも力をいれている。宇治市でも、空き家や空き教室を利用した取り組みを参考にできないかと思った。

(委員)

宇治市にこういった方がおられたらと大変羨ましかった。30代で大変パワーがある。私も学校や地域で取り組みを行い、中学校では防災活動に取り組んでいるが、コンサートを開催しながら、その中で避難訓練をする。両者をつなげるその発想がどこから出てくるの

だろうと。とても楽しい内容だった。

(委員)

家族が町内会長をしているが、この町内会は全員高齢者。80歳以上は一律に関わりを外すとなると活動が成り立たなくなるので、年齢を理由とした関与の制限は慎重になっている。

一方で明石市の話にあるような、空き家が増加している地区と比べると人口が多く、新築住宅の建設と転入者の増加が続いているが、結果、町内会が分裂している。地方で空き家対策や人口減少対策を講じている話はよく聞くが、都市部において人口が増えることで逆に地域の結びつきが薄れていくという全く対照的な事象に対し、どう対処できるのかと感じる。

(委員長)

新興住宅を前提としたオールドタウンとニュータウンの間には、軋轢や断絶が生まれている。そうした地域が人口減少に直面すると、再び開発が始まり、同じような歴史を繰り返している。だからこそ、それらの世代や地域をつなぐために、アクティビティや政策などを設けていくことが重要であり、私達が考えるべき課題ではないかと感じた。

4. 協議事項

➤ 令和6年度生涯学習関連事業評価の自己評価について

(事務局)

この評価については「宇治市生涯学習審議会の運営に関する内規」において審議事項として定められており、配付した資料は前年度実施した関連事業について、事業目標に対する事業実績、担当課で評価した自己評価内容及び次年度に向けての課題と目標をまとめたものである。

対象となる事業については、「第2次宇治市教育振興基本計画」における、施策5「家庭・学校・地域の連携・協働促進」と施策6「市民が学び合う生涯学習社会の進展」に関連する、市民の自主的な活動の支援、講座やイベント、人材育成等、学習活動を支援する事業や取組に該当する事業を、生涯学習課にて抽出したものである。なお、これまでの審議会でのご意見を基に、今回様式を見直し一覧表として作成した。また資料の最後に参考資料として、一部の事業とはなるが各事業のチラシ集を追加しているので適宜ご覧いただきたい。

本日の審議会で委員の皆様からいただいたご意見は、担当課にフィードバックし、各事業の今後の方向性の整理や予算編成時の参考にできればと考えている。

それでは、事業の中からA、C、D評価を中心に、主要なものをピックアップして説明させていただくが、事業数が多いため半分に区切って説明した後、ご審議いただきたいと考えている。前半については資料⑨の1～3ページ、施策5及び施策6の「(1)生涯学習情報の的確な提供」と「(2)生涯学習講座の充実」について説明する。

まず施策 5「家庭・学校・地域の連携・協働促進」についてである。推進施策と主な取組の「(1) コミュニティ・スクールの推進」では、教育支援課の「放課後子ども教室支援事業」を説明する。この事業は、「平日の放課後及び土曜日の午前中に、地域の参画を得て、子どもに安全・安心な居場所を提供する。」ものであり、3 小学校で実施している。令和 6 年度の事業目標「参加人数 4,500 人」のところ、実績は「4,218 人」であり、事業目標を概ね達成した「B 評価」としている。評価理由は、「地域住民等で構成される推進組織の運営により、放課後等の学校において児童の遊びと学びの場を提供することができた。」とする一方、「教室を持続的に運営するための、地域の安定した協力体制においては課題があった。」ためである。令和 7 年度に向けては、「地域学校協働活動を推進していく中で、引き続き国の動向等を踏まえ、地域の推進組織と連携・協力しながら、人材確保を含め、子どもの健全育成に向けた環境づくりを推進する。」としている。

次に、推進施策と主な取組の「(4) 青少年の健全育成」である。この中からは、表の一番下の 5、生涯学習課の「宇治市小学生百人一首大会」について説明する。昨年度新たに実施した事業で、『古典の日フォーラム 2024』が宇治市で開催されることを記念して、宇治市在住の小学生を対象とした百人一首大会を開催して古典に親しむ機会を創出するとともに、他校児童との交流や学びの場とする。」ことを目的に実施した。事業実績は、市内在住の小学生から 60 名を募集したところ、11 月 4 日当日は低学年 22 名、高学年 32 名の合計 54 名の参加があった。事業評価は B としており、評価理由は「ほぼ目標人数を達成し、古典に親しむ機会の促進に寄与できた。」ためである。令和 7 年度に向けては、「より多くの参加者を得られるよう、事業内容を精査し、引き続き取組を進めていく。また、京都小倉かるた会の協力が無くては事業の実施が困難であることから、引き続き協力を依頼する。」としている。

次に 2 ページの施策 6「市民が学び合う生涯学習社会の進展」の推進施策と主な取組「(1) 生涯学習情報の的確な提供」については、一番上の 1、地域福祉課の「地域支えあい出前講座」を説明する。事業内容は、「市内在住、在勤又は活動する人を対象に、身近な地域で住民主体の福祉を推進する“地域福祉”についての理解を深めてもらうため、市内の団体等が主催する集会等に担当職員の派遣を行い、出前講座を開催する。」ものである。事業目標「身近な地域で住民主体の福祉を推進する“地域福祉”についての理解を深めてもらう。」に対して、事業実績は「令和 6 年度は申込がなかった。」である。事業評価 C の理由については、「講座への申込がなく、周知が課題であるため。」としており、令和 7 年度に向けては「講座の開催回数の目標は従来より設定していないものの、地域住民が主体となる地域福祉についての理解を深めてもらうきっかけづくりのため取組を継続する。さらに、本事業の広報を行い、周知を図る。」としている。

次に 2、危機管理課の「防災講座の開催（出前）」である。事業内容は、「防災に関する市民意識の高揚を図るため、町内会や各種団体で防災講習会を開催。職員を講師として派遣。市より町内会などに講習会の開催を働きかける。」ものである。事業目標「世代を問わず防災意識を高めてもらえるような出前講座を実施する。」に対して、事業実績は「市民の災害発生時の対応や平時での防災意識の向上のため、各町内会・自治会、要配慮者施設や

団体が開催する防災講習会などにも職員が積極的に参加し、防災に関する啓発を行った。」である。事業評価 A の理由について、「座学だけではなく、パーテーションや段ボールベッド等の組み立て方を学ぶ避難所運営体験や非常用持ち出し袋の作成に関するゲームを実施することにより、若年層世代の防災意識の高揚を図ることができたため。」としており、令和 7 年度に向けては「引き続き多くの市民に防災意識を高めてもらえるような出前講座の実施方法について検討する。」としている。

次に「推進施策と主な取組」の「(2) 生涯学習講座の充実」について説明する。3 ページをご覧ください。

3 行目の 5、生涯学習センターの「宇治鳳凰大学」の事業内容は、「65 歳以上の高齢者の学習への関心の高まりに呼応し、高齢期に適した教養や健康増進のための学習を取り入れて、健やかで生きがいのある生活を送ってもらうために実施する。」である。事業目標「アフターコロナの生活様式を踏まえた鳳凰大学運営を行う。中央公民館事業から生涯学習センター事業への移管 2 年目にあたり、さらに円滑な運営に努める。」に対して、事業実績は「各講座、入学式、鳳凰大学祭、卒業式、コース交流会、クラブ活動など、スムーズに生涯学習センター事業として展開し、活発で意欲的な活動が多く見られた。鳳凰大学祭では一般市民への周知、参加を促した。」である。事業評価 A の理由については、「コロナ前と同様の運営形態に戻せたことや、事業移管後 2 年目でよりスムーズな運営ができたことで、令和 6 年度目標を達成できたため。」としており、令和 7 年度に向けては「令和 8 年度センター改修工事を踏まえた円滑な事業運営を図る。」としている。

次に 11、生涯学習課（小倉公民館）の「小倉納涼盆おどり大会・同講習会」である。事業内容は、「地域伝統文化として開催し、地域の人々のふれあいと親睦・交流を深め、住みよく明るい地域づくりを進める。」もので、事業目標「実施に向けて手法を検討する。」に対して、事業実績は「小倉連合町内会が体育振興会と共催で小学校体育館で盆踊りを実施するため、公民館での実施を見送った。」である。事業評価 D の理由については、「実施を見送ったため。」としており、令和 7 年度に向けては「地域の盆踊り大会が盛大に開催されることから、地域での自主的な取組に委ね、公民館での取組は役目を終えることとなった。」としている。

次に 12、生涯学習課（小倉公民館）の「小倉茶香服大会」である。事業内容は、「地場産業の団体と連携して、お茶を味わいながら競技を楽しみ、宇治茶や宇治の文化についての理解と親しみを深める講座を開催する。」ものであり、事業目標「実施に向けて関係者と調整する。」に対して、事業実績は「関係者との調整の結果、感染症予防への対応が十分にできないと判断し、令和 6 年度も引き続き実施を見送った。」である。事業評価 C の理由は、「実施を見送ったため。」としており、令和 7 年度に向けては「実施に向けて引き続き関係者と調整する。」としている。

（委員長）

施策 5 と施策 6 の (1) (2) の 2 つについて、十分達成した A 評価と見直しが必要な C、D 評価を中心に説明いただいた。B をないがしろにしているわけではなく、B 評価の事業は

第 12 期宇治市生涯学習審議会 会議録

A になれば良いと思うし、C、D 評価の事業は B 以上になってもらいたいという意味で取り上げてもらった。施策 6 (2) 生涯学習講座の充実の 11 は、地域で取組がされているため行政が関わる役目を終えたということで、いずれ廃止になる見込みで D 評価となっているのだと思う。もちろん B 評価の事業も含めて、意見や質問があれば出していただきたい。

(委員)

まず単純なことを伺いたい。3 ページの 11 と 12 はいずれも実施を見送っているが、評価が C と D に分かれているのはなぜか。

(事務局)

11、「小倉納涼盆踊り大会・同講習会」については、地域で同様の盆踊り大会が開催されることから、公民館での取組は役割を終えたとして実施をしない方向であるため D 評価としている。12、「小倉茶香服大会」は、事業の性質上茶碗を回し飲みするような形式だったため、感染症予防への対応が危惧されコロナ後実施を見送っているものだが、その対応策を検討していると聞いている。茶香服の趣旨を鑑みた議論はあるかもしれないが、例えば紙コップで代替するなどして、今後も継続して事業を実施していきたいと考えているため C 評価としている。

(委員)

今の説明でよく分かったが、文面からは読み取れない。

(委員長)

「役目を終えることになった」という表現が、地域に任せて行政は入らなくて良いとの印象を受けた。

(委員)

納得した。

(委員長)

茶香服は文化との兼ね合いで悩ましい事業だと思った。紙コップへの代替はどうかとも思うものの、回し飲みは難しい時代だと思う。

(委員)

2 ページの 1、「地域支え合い出前講座」がどのようなものかよく分からない。2、「防災講座」は具体的な内容も書かれていて、皆の意識が高いこともよく分かる。防災だとたくさん人が集まるのに、地域福祉の話は誰も手を挙げないということだが、この 2 つは大いに関連があると思う。危機管理だけ学んでも、地域全体の繋がりコミュニティが切れていたら結局駄目だろう。この 2 つを関連づけられたら良いのではないか。

（委員長）

広報すれば良いものではない。今日も開催されている宇治鳳凰大学も盛り上がっているようだが、事業連携や講座との連動など、何か改善策は考えていないのか。

（事務局）

担当課からは連携という話は聞いていないが、「地域福祉」という大きなテーマは、防災などに比べて関心が向きにくい部分もあると思うため、ご意見のとおり他との組み合わせも 1 つの方法だと思う。担当課にフィードバックしたい。

（委員長）

美しい言葉だが「支え合い」が少し重たく感じるのかもしれない。ネーミングで趣旨が伝わっていない部分があるなら、工夫する必要もある。全く申込みがないのは広報の問題だけではないと思うので、心をつかむような形にする、他事業と連携してついでに話が聞ける機会を作るなど、他の工夫を検討いただきたい。

（委員）

住んでいる地域は新しい家も建って世帯数は多いが、繋がりが希薄になっている。公民館や集会所などで防災講座をしてもらえるのもありがたいが、地域全体でクイズラリーのような形式で防災を学べないかと思った。その中に福祉関係を組み込んで、実際に自分たちで地域を歩きながら地域全体で学べたら良いのではと思う。

（委員長）

内容もちろん大切だが、それを伝えるツールも大切で、ゲーム性を持たせたりウォークラリー形式で地域のことを知ったりできると楽しく学べると思う。防災講座の趣旨そのものは良いと思うので、「楽しく学べる」工夫をしたらより良いのではないかという提案をお伝えいただければと思う。

（委員）

「地域支え合い出前講座」について、周知が課題とのことだが、令和 6 年度はどのように周知していたのか。

（事務局）

担当課にヒアリングしたところ、市のホームページを中心に広報し、令和 7 年度については、チラシを作成、民生委員児童委員協議会 15 地区、総合福祉会館、公民館 4 か所、地域福祉センター 6 か所に配架したと聞いている。

（委員）

地域支え合いの話を出前で行ってもらえるというのは、市民にとって魅力的に感じるが、

申込がないのは情報が届いていないということだと思う。アイディアは浮かばないが、何か良い周知方法があれば良いと思った。

（委員長）

ターゲットを決めて、そのターゲットが集まる場所で広報する方法が、一番メッセージが伝わりやすいと思う。市民全体に対する告知は美しいようで届きにくい。それぞれの市民の持つ特性や行動パターン、集まる場所にダイレクトにアプローチしないと、ホームページや市の広報に載っているだけでは見ない可能性がある。こちらから見せる工夫、届ける工夫をしてほしい。

（委員）

事務局の説明があった項目ではないが、1点素朴な質問をしたい。

2 ページの施策 6 (2) の 1、長寿生きがい課の「一般介護予防事業 B 型リハビリ教室」について、地域で実施され予算もついて、市民ボランティアも関わっていることから生涯学習関連事業として挙げられていると思うが、ボランティアの意義やどのくらいの人数が関わっておられるか教えてほしい。

（事務局）

市民ボランティアの人数はヒアリングできておらず、現時点で回答できない。

（委員長）

費やした予算の中でどのくらいの方々と結びついているか、この事業に対する理解が広まっているかも重要な視点だと思うので、事業に関わったボランティアの人数も調べていただけると良い。参加者は多いが、実人数が増えていくことでこの事業がより一層充実したものになると思うので、延べ人数だけでなく実人数も増えるようご検討いただきたい。

（委員）

1 ページの 1、(放課後子ども教室支援事業)は、3 小学校で実施しているとのことだが、どの地域か教えてもらえるか。また、評価理由に「協力体制においては課題があった」との記載があるが、どの地域でどのような課題があったと考えているかが分かれば教えてほしい。

（事務局）

小学校区としては、北槇島小学校・平盛小学校・笠取第二小学校の 3 小学校で実施し、それぞれの地域の方々が主体となり、例えば北槇島小学校では、放課後の学習教室をメインとして書道や家庭学習の支援に取り組まれている。平盛小学校では学習をメインとした取組、笠取第二小学校では、放課後学習を含めて地域の遊びに取り組んでおられる。それぞれ開催頻度は異なるが、共通して関わる人材の確保が課題に挙げられている。笠取第二小

第 12 期宇治市生涯学習審議会 会議録

学校においては夏休みや長期休業期間中も含めてほぼ毎日開催され、ローテーションも検討しながら取組が続けられている。取組をされている方々から課題として伺った内容を踏まえてこのような記載とした。

（委員）

3 つの校区において同様の内容・頻度で行っているのではなく、それぞれで取り組まれているという認識で合っているか。

（事務局）

その通りである。

（委員）

前回もコミュニティ・スクールを挙げてほしいという希望を持っていた。放課後子ども教室は 32 校中たった 3 校しか行っていない事業である。コミュニティ・スクール、学校運営協議会、地域学校協働活動に今とても力を入れているのに、それが挙がってこないのが悔しく残念に思う。人数やどこが頑張っているといった評価は出しにくい事業だろうが、皆で頑張っていることに対する評価をしていただきたい。大まかな内容だけでも良いので記載を検討してほしいと思う。

（委員長）

4 ページの施策 6（3）（市民・地域活動への支援）に入るような内容だろうか。

（事務局）

評価の中に加えられていない理由は明確には答えられないが、コミュニティ・スクールでは、学校を中心とした地域との協働活動をどのように盛り上げていくか、皆さんに頑張ってもらいながら全校で取り組んでおり、事務局としても地域を主体とした取組としての役割や位置づけを大切に思っている。事業の役割や重要性について十分認識しているところであり、事務局で整理した上で記載するかを判断したい。

（委員長）

予算が限られる中で、新規事業を起こすためには何かを削らなければならないスクラップ&ビルドの考えがあると思うが、部活動の地域展開はまさに、地域学校協働の要素が強いため、検討いただければと思う。

（委員）

施策 6（1）3、の「生涯学習人材バンク」について、「町内会・自治会長向けに広報した」と書かれているが、住む地域の回覧版では広報を見なかった。情報が会長で止まっていたのであれば残念だと思う。専門性を持った人も多いと思うので、人材バンク登録者を増や

すためには、ホームページだけでなく回覧版などの紙ベースで見る方法も検討してほしい。

（事務局）

町内会・自治会長宛てに送付しているが、紙ベースで出さないでほしいというところなど、地域によっては回覧の対応が異なるため、紙ベースと合わせて違う形での周知方法も検討していきたい。

（委員長）

数年前に人材バンクの事業に関わったことがあるが、登録者が活用されないとなると新規登録者も増えないと思う。部活動の地域展開においても人材が足りず、人材の掘り起こしや活かせる場を検討する必要がある。生涯学習の推進のためには人の存在が非常に大きいため、広報もセットにして考えていけたら良いと思う。

（事務局）

引き続き資料⑨、4 ページ〔推進施策と主な取組〕「(3) 市民・地域活動への支援」について説明する。2、学校教育課の「図書館ボランティア養成事業」の事業内容は、「地域の教育力の活用を図り、学校図書館の活性化を図るため、市民・保護者を対象にした蔵書整理から読み聞かせを担う図書館ボランティアの養成講座」である。令和 6 年度の事業目標は「学校図書館の活性化を図るため、市民・保護者を対象に、必要な知識・技術を習得する図書館ボランティアの養成講座を開催し、学校図書館教育の充実を図る。」としており、事業実績は「学校図書館ボランティア養成講座を開催（令和 6 年 5 月 24 日）、学校図書館ボランティア研修会を開催（令和 7 年 2 月 14 日）、ボランティア登録者数 293 人」である。A 評価の理由としては、「学校図書館の新たな活性化を図るため、市民・保護者を対象にした蔵書管理から読み聞かせまでを担うボランティアの養成を図ることを目標に、内容を工夫した学校図書館ボランティア養成講座や学校図書館ボランティア研修会を開催することができた。ボランティア登録者数も増加した。」ためである。令和 7 年度に向けては、「コロナ後、登録者数が回復してきており、今後、さらに内容を充実させ、希望する保護者・市民が必要な知識・技術を習得する講座を開催する。」としている。

次に表の下から 3 行目の 11、男女共同参画課の「市民活動支援ここからチャレンジ相談事業」の事業内容は、「色々な分野でチャレンジしている、またはチャレンジしようとしている女性を支援するため、NPO 等の設立や企業等の相談窓口を委託して設置している。」ものである。令和 6 年度の事業目標は「新たな相談員を迎え 2 名体制で実施する。更なる市民への周知・啓発に努める。目標相談件数：96 件」としており、事業実績は「女性の起業や経営企画に向けた相談など、女性の活躍推進に向けた事業を実施する事が出来た。数ヶ月先まで予約できない状況を緩和するため、相談時間を短縮してコマ数を増やしたことで、相談件数は 104 件と、目標件数を達成した。また、「ここからチャレンジ・マルシェ」を年 5 回開催し、延べ 201 ブースの出店があり大変賑わった。」である。また、A 評価の理由としては、「「ここからチャレンジ・マルシェ」を開催したことにより多くの方の参加があ

った等のため、目標相談件数を達成したため。」である。令和 7 年度に向けては、「引き続き、市民への周知・啓発に努める。目標相談件数：96 件」としている。

次に 5 ページをご覧ください。16、生涯学習センターの「ふれあいワークショップ」は、「出展者が取り組んでいる創作活動について、魅力を発信できる場とするワークショップ形式のイベント」である。令和 6 年度の事業目標は「募集数（11 組）に近い出展者が集まること。たくさんの参加者がふれあいワークショップを知って、楽しんでもらうこと。」としており、事業実績は「11 組を目標に出展者を募集したが、4 組しか応募がなく、実施を見送る事となった。」である。また、D 評価の理由としては、「販売のみの「手づくり市」の発展形として現在の事業となったが、大半が個人で活動する出展者であるためワークショップ形式での開催が難しくなっていた。次第に出展者が減少しており、令和 6 年度は実施を見送ることとなった。」である。令和 7 年度に向けては、「ふれあいワークショップは終了とし、様々な創作活動を行っている団体が魅力を発信できる新たな取組を検討する。」としている。

次に 17、生涯学習課（中央公民館）の「子どもの遊び場」の事業内容は、「土曜日の午前中を、子どもの遊び場として公民館の一室を子どもに開放し、さまざまな遊びや学習の体験や地域の人たちとの交流ができる場として、子どもたちがゆとりを持って過ごせる場所の提供を行っていく。」である。令和 6 年度の事業目標は「折り紙、クラフト、映画鑑賞、木工工作などのテーマで年間 12 回実施する。数値目標：参加者 267 人」としており、事業実績は「折り紙、クラフト、映画鑑賞、木工工作などのテーマで年間 12 回実施。広報紙には活動内容が分かりやすいよう必ずイラストを入れ、目を引くよう工夫した。また当日に中央図書館等に来館する子どもたちに声をかけた。数値実績：参加者 116 人」となっている。また、C 評価の理由としては、「令和 5 年度実績の参加者 222 人から減少したため。」である。令和 7 年度に向けては、「コロナ時代から部屋の規模に合わせた人数制限をする形式になったが、子どもたちが自由に参加していたコロナ前に比べれば、子どもたちの参加人数が減った。参加人数が定員に満たないものがあつたので、広報の仕方を工夫する。」としている。

次に 6 ページをご覧ください。表の一番上、30、健康づくり推進課の「健康づくり・食育アライアンス U-CHA イベント」の事業内容は、「健康づくり・食育推進計画の基本理念「こんにちはと笑顔で健やか宇治のまち」を目指し、「健康寿命の延伸」「こころ豊かに暮らせるまちづくり」の基本方針のもと、市民の健康行動変容のきっかけづくりを行う。」である。令和 6 年度の事業目標は「12 月 22 日（日）に生涯学習センター及び産業会館で健康づくり・食育をテーマにしたイベントを開催し、市民への「健康づくり・食育の増進」をはかる。数値目標：参加者数 1,000 人」としており、事業実績は「昨年度と同じ会場で健康づくり・食育をテーマにした体験型のイベントを開催し、約 1,400 人もの来場者数があつた」である。A 評価の理由としては、「目標にしていた数値目標を上回る参加者数となったため」である。令和 7 年度に向けては、「12 月 14 日（日）に生涯学習センター及び産業会館で健康づくり・食育をテーマにした体験型のイベントを開催し、市民への「健康づくり・食育の増進」をはかる。数値目標：参加者数 1,000 人」としている。

(委員)

「学校図書館ボランティア養成講座」について、コロナ禍で立ち消えになる事業も多い中、登録者数が戻ってきているのは素晴らしいことだと思うが、何人から増えて 293 人になったのか。

(事務局)

令和 5 年度の 270 人から令和 6 年度の 293 人で、23 人増加したと聞いている。

(委員)

アクティブな人が 23 人増えたなら素晴らしいと思う。

(委員長)

登録者数は書かれているものの、ボランティアの活動実績や活動内容に関する情報が無いことが気になっている。先ほどの人材バンクと同様に、登録することがゴールではなく、繋がった方が地域活動にどのくらい関わってくださるかが実績として評価されるべきだと思う。事業名からすると養成して登録者を増やすことが実績にはなるが、この事業の延長線上にある、登録者がどのように活動しているか、どのくらい子どもたちに向けたアクティビティがあるか、という情報も見えるように付け加えてほしい。

(委員)

11、男女共同参画課の「市民活動支援ここからチャレンジ相談事業」について、相談件数が 104 件に延びた成果として、女性の起業や経営企画に向けた相談といった、女性の活躍推進に向けた事業を実施することができ、その結果、年 5 回・201 ブースの出展があったということか。相談したことにより、何かしたいと感じたり、様々なチャレンジができたりという成果が生まれたということか。

加えて、何かこれ以外の報告は上がっているか伺いたい。

(事務局)

ここに記載した以外の情報は得ていない。

(委員長)

この事業に関しても相談をしたことが成果ではなく、相談したことによって事業化を図ることができたか、出展ができたかというところも目指すべきゴールだと思うため、その辺りも実態を把握していただきたい。

(委員)

6 ページの 30、「健康づくり・食育アライアンス U-CHA イベント」について、記載されているのは 12 月 22 日のイベントの成果だけだが、U-CHA では他にも「うーちゃ学校」

など様々な事業をされていると思う。今回はそれらは含まれないということか。

（事務局）

事業名を「イベント」としているため、他の活動はここに含まれていない。

（委員）

「うーちゃ学校」もある意味「イベント」と言えるのではないか。参加者が多ければ良いわけではないが、「うーちゃ学校」は参加者も非常に多い事業であり、記載があれば成果がよく見えると思うので、検討いただければと思う。

また、7ページの「宇治川マラソン大会」について、令和7年度に向けた目標と課題の中で、「大会運営に関わる役員等に対して主催者意識向上に向けた取り組みや体制の見直しが必要」と書かれているが、運営ボランティアの募集はしているか。また、募集しているなら何人参加されているのか教えてほしい。

（事務局）

実績としてどのくらいの人数が関わっているかは、データを持ち合わせていない。様々な団体が主催側に加盟しており、それらの団体からボランティアを派遣してもらっているが、一般市民からのボランティア募集も行っている。

（委員）

昨年、他の自治体のマラソン大会にボランティアとして参加したが、実際にボランティアとして活動することで大会に対する思いや空気感を体感した。体制の見直しが課題に挙げられているのであれば、ぜひ積極的に学生などにもターゲットを広げて募集をかけたら良いのではないかと考えた。

（委員長）

宇治川マラソンに限らず、マラソン大会ではボランティアの方々の関わりが再参加率を上げるというデータも出ている。ボランティアは非常に重要な役割だと思うので、ぜひそのあたりの情報も確認しておいてもらえればと思う。

（委員）

全体を見て、様々な事業をしているのだと感心した。コミュニティ・スクールでコーディネーターをしている立場としては、図書館ボランティアや授業補助など、地域のボランティアからのサポートに感謝している。ボランティアになる前段階で、どのような事したら良いかの問い合わせが必ず来るため、学校で分かることは説明しているが、講座を積極的に開催してもらうことでボランティアの関心がさらに深まっていくのだろうと感じた。

（委員長）

非常に重要な観点だと思う。ボランティア講座と言えば、ボランティアというワードに食いつく人が対象となる印象を持つが、やってみたいけれど一歩が踏み出せない人も多くいるだろうと思うと、背中を押すようなボランティア養成講座もあれば良いと感じた。図書館ボランティアに限らず他の事業においても、一般論で考えるボランティア養成という堅苦しいものでなく、一歩を踏み出すきっかけづくりができる講座も検討いただければと思う。

（委員）

事前に資料を送付いただき軽く目を通したが、事業の多さに驚いた。

自身がこの分野に携わるきっかけとなったのは、くじで選ばれた PTA で会長を担ったことである。会長になったことで、入学式・卒業式の椅子が並んでいたり運動会の準備が整っていたり、PTA 総会の資料が用意されていたりといった、それまで当たり前だと思っていたことが、全て先生方の準備によるものだと思った時に感動した。会長を務めたのは 1 年間だけだったが、縁があって地区の青少年健全育成協議会の役員になったことから繋がりが続き今日に至っている。本日様々な事業を見て、審議会の熱い想いも感じた。

（委員長）

とても重要な話だった。地域で行われていることについて、多くの人には内実が伝わっておらず、どのようなプロセスが積み重ねられているかの見える化がされていない。くじ引きやじゃんけんで負けたということがない限り、地域のことに関わるチャンスも無いということも有り得る。自身も人生初の理事長はあみだくじで決まったマンション管理組合の理事長だが、本来罰ゲーム的に決まるものではなかったはず。地域の方々をどのように巻き込んでいくか、堅いイメージを打ち崩して関わってもらうにはどうすればよいかを考えるのが私達のミッションだと感じた。順番やくじで役が回らない限り地域の活動に関わらないのではなく、自ら関わりたい・関わられるような仕組みづくりが必要だと思った。

（委員）

どのように参加してもらえばよいか、なぜこの事業が減っているのか、など疑問に思いながら聞いていた。キャッチコピーが大事という話が出たが、やはり初めから主体的に関わるのは大変で、いきなりワークショップだったり、ボランティアになろうというスタンスだったりすると参加が難しいのかもしれない。少し興味があるという受け身でも入りやすい事業や広報手段を考えると、間口が広がってチャンスが増えると思った。

（委員長）

どのように接点を持つか、入口が重要だと思う。事業に関わるきっかけがないと始まらないので、そこを意識してもらいたい。

(委員)

現代人は SNS 疲れしており、ホームページに載っている情報を自ら取りに行くことにも疲れている部分がある。時代に逆行しているようだが、チラシを見ることで興味を持つ、チラシ回帰の動きもあることを、行政も頭に入れておいてほしい。人材バンクについて、回覧が回ってきていないとの話も出たが、結局は口コミではないかと思っている。自身も友人に人材バンクの話をしたところ、ぜひ登録したいと申請書を作成中であるが、講師となり得る人材に、知っている制度を紹介することにより、活動をアピールできるチャンスを創出でき、新たな繋がりが生まれるのだと思う。この場で様々な事業を知る機会を得たので、我々から伝えて活性化していくことも大切だと思った。

(委員長)

ご意見のとおり、繋がりをつくるためにはきっかけが必要であり、私達はきっかけをつくる役割も担っていると思う。

(事務局)

前半にご質問いただいた、2 ページ (2) 1、長寿生きがい課の「B 型リハビリ教室」の市民ボランティア登録者数は現在 283 人である。学区福祉委員などを中心に、各小学校区で週 1 回程度開催されているとの情報を得たので報告する。

(委員)

約 20 校区で行っていることを考えると、各教室に十数人ずつ配置されているということか。

(事務局)

単純計算ではそうなる。

(委員)

何事も人が細かく準備しなければ動かないのだと、話を聞きながら思っていた。最近マスコミでも話題となっていることだが、選挙で書き換えが行われているとのデマが流れている。自身は実際に選挙管理委員会で選挙の話を聞く機会があったため事実でないとすぐに分かるが、一般的には選挙管理委員会に携わる人が身近にいるケースは少ないだろう。何事でも自分が関わって 1 から世話をした経験があれば誤った発言は出るわけがないが、SNS に挙がった一部の人の書き込みが膨らんで溢れかえっている。書き込みの声ばかりが大きくなり、現実に取り組んでいる人が発信しづらい今の社会においては、何か方策を考えなければならない。この辺りについても議論できる機会があれば良いと思う。

(委員長)

非常に重要な話である。私達は氾濫する情報の中で、取りたい情報ばかり取って、異な

る観点の情報を遮断する性質を持っている。フィルターバブルと言われる現象だが、欲しい情報だけしか耳を傾けなくなると、一般では考えられないことを信じ込んでしまう。だからこそ情報の発信方法や、情報に触れる機会の創出を考えていかなければならない。事業を行うにあたり発信しても伝わらないというのはフィルターバブル現象も関わると思うので、いかにして声を届けるかについても考えていく必要があると思う。

事業枠や予算の兼ね合いでスクラップ&ビルドも必要になるかもしれないが、審議会委員としては宇治市に新しい価値を生み、それが仕組みとなることを願っている。本日出た意見を担当課にも伝えていただき、事業を精査したり新規事業化を図ったりすることも検討願いたい。

5. その他

➤ 委員カードについて

(事務局)

委員カードをまだご提出いただいていない方は、お帰りの際に事務局にご提出いただきたい。

➤ 次回審議日程について

(事務局)

次回の審議会については、9月の開催を予定している。冒頭に委員長からも話があったように、今期は子どもの読書活動推進計画及び図書館事業計画についての審議をお願いしたい。9月は子どもの読書活動推進計画にかかる事業の進捗状況と意識・実態調査の報告及び計画の中間見直しについての意見聴取、図書館事業計画にかかる市民ニーズ調査・利用者アンケートの結果報告と第三次計画初案についての意見聴取を予定している。日程は後日調整する。

・ 最後に

(委員長職務代理)

暑い中お集まりいただき感謝している。9月も楽しく活発に審議できたらと思っている。暑い夏なのでお体に十分気をつけて乗り切ってください、9月にまた元気にここでお会いしたい。